

九三 改作方仕法之儀大聖寺藩に返答留

元祿十一年大聖持より前川宇右衛門

罷越相尋候に付及返答候品々留

一、不作之年切免之事。作毛同事に而茂、常々難澁村は、見圖之上に而切免心持有之哉之事。山方銀納所々村々、畑作不作之時は御救被成様之事。

免切之儀、召連候扶持人入札平均を以引免相極候得共、所により少々指引仕儀も御座候。山方銀納所之村、畑方不作之刻、別而御救と申儀は無御座候。但、先年一統早損之年、畑方は見立申例も無御座候に付而、御貸銀被仰付儀も御座候。其節銀納所之村茂、右畑方並に准御貸銀御座候。

一、難澁村被成様之事。

難澁村之儀、或は御貨物引免等之時分も、外々村よりは宜様に致用捨、其内にも別而かじけ候村は、定免之内年季引免申付所も御座候。

一、免切一步疋有之哉之事。

一步疋を以引免相極申儀は無御座候。見立に罷越候刻、奉行人爲試一步疋仕儀も御座候。

一、見圖切免、役所に而相極候哉之事。

免切、郡々々奉行罷越見立申村々、其日切に引免員數申渡、請書付を取、早速田を疋候様に百姓共々申渡候。

一、步入日限之事。

年貢米步入之儀、先年は定納百石之内十石八月・九月中、六十石は十月・十一月、三十石は十二月中と御極之儀も有之候得共、其年之様子により不同御座候に付、近年は九月より十一月迄之内、一ヶ月に兩度宛十村より組下入米書付爲出、步入すくなき所吟味仕候。

一、九月中に組十村より皆濟請合候書付出候哉、又は十月に至書付出申候哉。且又皆濟日限十一月中と相極候哉、但年により日限遅速有之候哉之事。

立毛實入仕候躰見届、村々肝煎・組合頭より十村方へ當納所皆濟可仕旨書付を取集、其上を以十村より組下何十何ヶ村當納所皆濟可仕旨秋縮之書付、九月中出之申候。

其年藏納皆濟日限は、奉行共相考、十二月廿日前後之内何日を限年貢皆濟可仕旨申渡、其通致皆濟候。

一、切免無之年、暮に至御收納滯候節者、如何様之品に而皆濟仕候哉之事。

免切無之年、暮に至收納相滯申儀、右之通十村共より先達而秋縮書付取置申に付、暮に至斷申儀無御座候。

一、切免有之候得共、其以後秋入等惡敷、暮に至滯米有之時、右同斷。

引免相極申渡候節、殘免之通皆濟可仕旨請合書付取置申に付、暮に至及斷候儀無御座候。

一、年内糶納有之哉之事。

年内糶納と申儀、常は無之儀に御座候。萬治三年秋中雨降續、米に仕儀罷不成候に付、年内糶納罷不成申候。元祿五年雪早く積、年内米に仕儀難成に付、郡により少々糶納に罷成候儀も御座候。此外糶納と申儀無御座候。

一、右糶納有之年、春に至納替様之事。

右年内糶納に罷成候分、春に至百姓米摺候而藏納仕候。一、糞代御貸付御取立之事。

先年御納戸銀之内、糞代として改作方に請取置、糞手づかへ申村々々、毎歳春之内貸渡、暮に至取立申候。

一、火事被下物・御貨物員數之事。

在々百姓家焼失仕刻は、松材木被下之外御貨物は無御座候。去共村中火事に逢、必至と給物等無御座様成儀有之候得ば、相續候様に御貸米有之儀茂御座候。但、宿方・浦方等之儀、自分に家作難仕者は、松材木被下、御貸銀被仰付候。

一、追出又は走百姓之跡高入用銀・米員數之事。

此兩品、替百姓に入用銀・米遣候儀無御座候。十村共夫々見計、納得を以入百姓相極、其段奉行に相斷、指圖を請、入百姓申付候。入用銀・米此方より食着不仕候。

一、追出百姓跡田地借物之内、捨り物・取立物之事。

此品、替百姓家・高を取申に付、前々御貨物請合沙汰仕候。捨り物と申儀無御座候。

一、走百姓跡田地借物之地、捨り物・取立物之事。

右同斷。

一、自繼百姓右同斷。